

FOCUS

追いかける。大学生。

環境・国際支援サークル

CHOVORA!!

まちチョコプロジェクト

環境・国際支援サークル「CHOVORA!!」(チョコボラ)はフェアトレード商品の学内販売や地域のゴミ拾いなど幅広くボランティア活動中。今回「まちチョコ」に初挑戦した学生らをフォーカスした。

「まちチョコ」とは地域の人がデザインしたパッケージと、フェアトレードで仕入れたチョコレートで作られた、地域限定のオリジナルチョコレート。「フェアトレード」とは途上国の生産物を、仲介人を挟まず原価で買い取る貿易のことだ。地域のお店やカフェでの販売という一連の流れを通し、フェアトレードの知名度拡大を狙ったこのプロジェクトには、関東・関西のさまざまな大学が参加している。

大阪市立大環境・国際支援サークルCHOVORA!!は今回初めてまちチョコに参加した。昨年12月末から話し合いを始め、通常では1年かけて行うプロジェクトを約3カ月という短い時間でやり遂げた。まず、大阪市大のある住吉区内でプロジェクトに協力してくれる店舗を探す。飲食店や小学校に募集用紙を置き、地域イベントでもデザインを集めた。例年は募集を行なっても10枚程度しか集まらなかったデザイン案が、今回

チョコでつながる 地域の縁

はわずかに半月の募集期間にもかかわらず76枚も集まった。応募の中から選ばれたデザインは2つ。1つは住吉大社の太鼓橋をモデルにしたもの。もう1つは小学校5年生の児童がデザインした、つないだ手が印象的なものだ。デザインを選んだポイントはパッケージのコンセプトである「縁」と「つながり」が表されているかどうか。これはまちチョコができるのも、地域の人たちの協力やつながりがあったからできているので、地域の人にも人との繋がりをまた思い起こしてもらい

たいという思いのコンセプトだ。「フェアトレードという言葉は日本では認知度が低い。まちチョコを通じてフェアトレードを知ってもらうこと。そして商品を購入する際、選択肢にフェアトレード商品を加えてもらうことが理想です」とCHOVORA!!代表の和坂友利江さん(大阪市大・2年)は力強く語った。今回開発されたチョコレートは3月17日から、イベントでの販売のほか、住吉区の居酒屋など3店舗で販売されている。(聞き手 茨木啓子)



CHOVORA!! 代表の和坂友利江さん(左)と部員の村田享謙さん

UNN関西学生報道連盟

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com